

町長 今後、インター、遠賀川渡架橋などの条件整備が整えば状況もかわりますので、その時点で会議を立ち上げたいと考えています。

質問 かんがい基金へ返済するためには、この小牧用地を処分しなければならぬと考えます。

この土地は、中高層住宅専用地域で工業団地として処分はできませんので、造成し住宅団地としての処分もあると考えますが。

町長 町として財源がありませんので、今の時点で開発することは考えていません。

質問 インターができることによって、用途地域の見直しも必要になるのではないですか。

町長 小牧地区を含めた地域がメインとなりますので、用途地域の見直しも視野に入れ確実に作業を進めていきます。

県産炭地域活性化基金の内容は

質問 県産炭地域活性化基金が当町に1億9000万円配分されましたが、その事業計画はどのようなものになりますか。

町長 交付対象の事業は、企業誘致、地域資源活用イベントや企画調査、土地の造成・施設の整備など8分野となっておりますので、県の担当課と協議して、現在事業計画を提出しています。

質問 活性化基金の残りが25億円ありますが、これは広域的な振興事業に使うとしています。当町はインターなどの事業がありますので、全力をあげて獲得しなければならぬと思っております。

町長 現在、関係市町と協議をしています。今のところ具体的なものはありません。予算の獲得のため、精力的に頑張ります。

広島県三次市議会から来庁 当編集委員会を視察



議場で行われた視察研修会のようす

当議会だよりが、本年2月に全国町村議会議長会主催の全国コンクールで奨励賞を受賞したことにより、いくつかの市町から視察の申込みがあります。

平成19年8月20日には、広島県三次市議会広報編集委員会の委員(議員)8人・事務局2人、計10人が視察にみえました。

当町も編集委員全員が参加して対応し、日頃の編集作業などを説明、後に活発な意見交換を行い、1時間30分の研修を終えました。

また、11月7日には、熊本県芦北町議会広報編集委員会が視察にみえる予定です。

意見交換

研修会の中では、次の事柄について活発なやり取りを行いました。

1. 編集委員の選出・任期
2. 編集作業の分担
3. 編集会議
4. 発行に伴う経費
5. 事務局の事務分担
6. 発行状況
7. その他

当町議会広報編集委員会の基本

編集委員は、議長の委任のもとに全責任を持って担当しています。

ありのままに
住民とともに
わかりやすく
を基本に

1. 編集の自主性を確立する。
2. 議会情報の「完全公開」
3. ありのままの、公正、客観的な記事
4. 親しみやすい読者の立場に立った紙面づくり
5. 住民参加型の編集企画と記事